わかくしま

第124号

— 発行者 —
福島県公立学校退職校長会
福島支部長　鈴木昭雄

— 編集広報部 —
— 題字 —
高橋　藤園

春に想ふ

福島県公立学校退職校長会
福島支部副支部長
佐藤和彦

第一章　教育は生き残った

毎年、それぞれの三月十一日が、私たち一人一人にやってくる。

暮らしを壊し、安心を乱し、季節感までも奪った大震災、そして原発事故。

その日が近づくにつれ、自分の中で「生きる」ことへの問いかけがくり返される。

自分は何者なのか。
どこから来たのか。
どこへ行こうとしているのか。

結局、今をどう生きるのかが問われているのだろう。

先の大震災は、「生きる力」を根源的に問い直す出来事であった。

震災直後、被災地の中学校でのある卒業生の答辞が、今でも忘れられない。

「自然の猛威の前では、人間の力は、あまりにも無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というにはむごすぎるものでした。辛くて、悔しくてたまりません。しかし、苦境にあっても天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。」

その姿、その声から、被災地の中学生が受けた衝撃の大きさ、心の傷の深さが、痛々しいほど伝わってきた。

そして何よりも、悲しみをこらえながら、「苦境にあっても天を恨まず」と声を振り絞って述べる姿は、苦難の中にあっても、人間が必死で生きようとする瞬間を映し出しているように見えた。

その時、私は、まさしく教育は生き残ったと感じた。

あれから十数年、あの中学生は、どんな若者に成長しているのだろう。

第二章　春を呼ぶ主役

冬は「殖ゆ」（ふえる）からきた言葉だという。

新しい命が増え、木の芽やつぼみが膨らんでいく。その季節を「冬」と呼んだ。

春は、「張る」に由来する。

芽やつぼみはどんどん膨らみ、張り裂けんばかりになっていく。

まさしく、命がみなぎり、張り切れんばかりになった季節が「春」なのだ。

張りに張って、これ以上膨らむことができなくなったとき、つぼみは裂け、花と咲く。

咲くは、「裂く」なのだ。

「サク」はこのままの状態でいられないぎりぎりの状態をさしている。

私の好きな「酒」もしかりである。

これ以上飲んだら、人間からトラに化けてしまう飲み物、それが「酒」である。

ほどほどに飲んで、人間のままでいたいものだ。

ところで、この時期、老若男女、一人一人の芽やつぼみは、「殖え」ているだろうか。四月からの新たな一歩に向けて、「張り」切っているだろうか。

三月は、別れと出逢いの季節だ。その中で、自分を静かに振り返り、見つめる機会でもある。

そこに、出直し、仕切り直しできるチャンスが生まれる。自分をリセットできるチャンスといえる。

一人一人の
春に向かって…

春を呼ぶ主役は、私たち一人一人なのだ。

『変化する高等学校教育』

福島県高等学校長協会
県北支部長　丹野純一
（福島県立福島高等学校長）

県北の高校の新しい動き、学びの姿の一端をご紹介します。

○令和五年四月に二本松工業高校と安達東高校の統合により、二本松実業高校が開校しました。工業科（機械システム科、情報システム科、都市システム科）と県内唯一の家庭科（生活文化科）を併設する専門高校です。

風力発電設備に係るＶＲ体験を行ったり、飯舘村長泥地区で行われている除去土壌を処理した上で農業に再利用するという実証実験の現場を見学するなど、学科連携・地域連携による協働的・探究的な学びにより、高い専門性と社会性を身に付けた、「地域産業の中核となる人財の育成」に努めています。

○同じく昨年四月に保原高校と梁川高校の統合により伊達高等学校が開校しました。県北地区のキャリア指導推進校として、進学キャリア、ビジネスキャリア、地域キャリアの三つのコースをもつ普通科の高校です。一月には伊達市の地域活性化の提案を行う「伊達市高校生伊達な〝ミライ〟創出プロジェクト事業」が伊達市役所にて開催されました。梁川校舎からは「伊達市をより良くするために」という題で、道の駅伊達の郷りょうぜんに着目し、伊達市に多くの人が集まるにはどうしたらよいかを考え提言しました。

○コース制の取り組みも始まっています。福島東高校の教育コースでは、生徒が福島大学附属中学校の教員の研究発表会に参加するなど、実践的に教育について学ぶ機会を設けています。

教育コースに加え保健・医療コースも設けている橘高校では、両分野の大学教授等の講演会を開催。福島高校の医学コースでは、医師の講話や病院での体験実習等を通じて高い志を育んでいます。

○新学習指導要領に基づく教育が始まって二年目を迎え、各校においては探究的な学びが大きく進んでおります。例えば、本宮高校では、「日本一美味しい焼き芋を作り本宮市を盛り上げ、本宮をもっと好きになる」というコンセプトのもと、石焼き芋に適したさつまいもの選定から始まり、焼き窯を調達したり、芋の甘みを最大限引き出す調理法を習得したりするなど、高校生が主体となった活動を展開。高校生だけで解決できない場合には、地域の方々の協力のもと焼き窯やそれを運ぶためのリヤカーの製作、芋の焼き方の講習や焼き窯の搬送、販売実習に臨みました。石焼き芋は大好評。福島県社会貢献活動コンテストで最優秀賞に輝きました。

二本松実業高校生と安達高校生が二本松市議会を訪問し、議員と「二十年後の二本松市の未来を語ろう」というテーマで意見交換を行い、市の防災、福祉、子育て、農業、まちづくり等について自分の考えや意見を堂々と述べました。

このように、高校生の学びの変革は少しずつ前進しています。今年度教委がインターネットに開設した、公式ｎｏｔｅサイト「福島県学びの情報プラットフォーム」では、県内の高校生たちの生き生きとした学びの姿が紹介されています。是非ご覧ください。

賀寿万歳

～佐藤昌志先生宅を訪問～

先生は小名浜高等学校長、教育庁総務課長、教育次長、そして昭和五十九年から昭和六十三年まで福島県教育委員会教育長として福島県教育の発展に寄与なされてきました。退職後は平成九年から十四年まで県退職校長会長として、現在は顧問として福島県退職校長会の発展に尽力いただいています。

先生が九十五歳を迎える誕生日の前日（一月二十二日）に鈴木支部長、持地事務局長、鵜沼地区担当理事、髙橋広報担当が賀寿のお祝いにご自宅を訪問しました。

昨年二月に肺炎で入院をされたとのことですがとても若々しく、お話しされる言葉の隅々に元気が満ち溢れていました。その秘訣をお聞きすると「病は気から、何事もくよくよしないことが大切」と話されました。また、庭の一角を畑にしてきゅうりや小松菜、大根などの野菜を植えたり、盆栽の世話をしたりと時間を見つけては体を動かす事に心掛けているとも話されました。

鈴木支部長（左）と佐藤先生（右）

先生に沢山の思い出話もお聞きしました。広島市に原爆が投下された八月六日には江田島の海軍兵学校に居り、投下の瞬間を目撃したそうです。戦争が終わり福島に戻る道々では焦土と化した街々の様子を見ながら帰ってきたと話されました。

長い教育庁勤務の中では宮城県沖地震時の庁内での様子、鹿児島県との交流、教職員組合との対応、海外研修での出来事などなど当時の事を思い出しながら懐かしくお話しされました。

先生は囲碁を趣味とし、長年支部囲碁クラブの代表として運営に携わってきました。現在も例会に参加なされ親睦を深めています。

若々しく、元気な源は囲碁クラブにあるのでしょうか。

●ふれあい広場 ―クラブ会員紹介―●

ウォーキングクラブの活動

ウォーキングクラブ
西部Ｂ　加藤　隆

「おはようございます。」と元気な声で始まるウォーキングクラブです。それぞれの体調を話しながら、朝のコースを出発します。

桜堤公園から旧佐久間邸までのコースです。荒川沿いのコースを自分のペースに合わせながら歩きます。季節が変わるごとに風景がきれいに感じます。また、鳥の声が聞こえてくるのも良い感じです。旧佐久間邸で、ふくしま花回廊のデジタルラリーをスマホに取り込む方法を係の人に教えてもらいました。そのおかげで、その後、いろいろな花回廊を見ることができました。ちょっとしたことで、今までいかない場所へ行くことができました。

また、メンバーの一人が、この旧佐久間邸で小さいときに、遊んだ話を聞くことができました。いろいろな縁があることを感じました。

ここまで、旧佐久間邸での説明を含めて、往復約二時間の活動でした。

街中でのウォーキングでは、何度も通った御倉邸で、係の人から御倉邸の成り立ち、その後の活動、昔遊び等楽しい話を聞くことができ、聞いてみないと分からないことを学ぶことができました。歩いていただけでは、分からないことがあると思いました。

飯坂のウォーキングでは、堀切邸の歴史を学んだり、足湯の感触を手で感じたりしました。堀切邸を出たところで、丁度、地区の小学校の鼓笛パレードに出会い、元気な活動を見て、懐かしさを感じました。

信夫地区のウォーキングでは、地域をウォーキングする中で、鳥川地区の小さな神社を訪問しました。出会った地域の方に鳥川の歴史を説明してもらうことができ、興味深い活動になりました。また鳥川のお寺への訪問では、メンバーから詳しい説明をしてもらうことができました。今まで知らなかった福島の歴史を再発見できたように感じました。

このように、自分の体力と相談しながら、会話を楽しみ、その時出会った人から貴重な知識を学ぶことができるウォーキングクラブです。

趣味としての囲碁

囲碁クラブ
吾妻Ａ　鈴木　暉夫

私は定年退職後の生活を豊かにかつ有意義に過ごしたいと思い趣味として囲碁を選択しました。囲碁を通して勝負を愉しみ、対話を愉しみ、知恵比べを愉しんでおります。

退職して間もなく誘われるまま福島碁聖会に入会し、以来、県北地区の退職校長会の皆さんと囲碁を楽しんでおります。福島碁聖会では年六回の囲碁大会が実施され会員の交流が行われています。また、福島支部囲碁クラブでは支部から補助金を頂き、福島民報社からの後援により年一回囲碁大会を開催しています。この大会は今年で第四十五回を迎えました。創設の当時の民報新聞には第一回大会の記事が掲載されました。運営係として過去の民報新聞から記録を調べ第一回からの大会優勝者一覧表を作成しました。

平成十九年春には吾妻地区の高齢者をお誘いして囲碁クラブを創設しました。吾妻囲碁クラブでは月曜と土曜日の午後、毎週二回囲碁会を行い、囲碁大会を年四回実施しています。クラブの仲間の協力を得て小学生に対しても囲碁の普及活動を行っています。野田小学校、庭塚小学校、三河台小学校でクラブ活動の時間に囲碁の入門指導をしました。

中国では二千五百年もの昔から囲碁は楽しまれておりました。中国宋の時代（西暦千百年頃）には世界最古の棋書「忘憂清楽集」（復刻版・講談社）が編輯されました。題名の「忘憂清楽」は「憂いを忘れ清技（囲碁）を楽しむ」と言う意味です。「退屈した時には囲碁で時間を過ごせばよい。もし仕事がなければ飽食終日何もしないよりましだ」という。このようなことから私は囲碁を第一の趣味として良かったと実感しております。

囲碁は老後の生活に潤いと励みを与えて豊かなものにしてくれております。趣味の囲碁と多くの碁友との出会いを心からありがたく感じている日々です。

令和６年福島碁聖会新春囲碁大会より

理事雑感

退職から早十一年

笹谷　尾下　峰夫

退職からこの三月で十一年目を迎えました。まさに月日の経つのは早いということを実感しているところです。

退職後の四年間は福島市内の学習センターに勤務させていただきました。担当したのは高齢者学級二つと家庭教育学級です。

高齢者学級では高齢者の方々の興味、関心、学習意欲の高さに驚かされました。また、家庭教育学級では親御さんの子の成長を願う熱い気持ちに触れることができました。

四年間の勤務が終わり、リタイアと思っていたところ、川俣町教育委員会から声を掛けていただき、生涯学習課に勤務することになり、もう一度ギアを入れ直すことになりました。

川俣町では閉校となった小学校を活用した社会教育施設の運営補佐を三年間、社会教育指導員の仕事を三年間、務めました。町および町民の教育に対する熱意を実感することができ、よい経験をさせていただきました。

昨年三月に退職し、今度こそ完全リタイアと思っていたところ、市内のある小学校から教務主任の後補充にと依頼があり、再三再四、断ったのですが、どうしてもということで、それほど困っているならと、八月半ばから勤めています。フルはもう無理ということで一月からは時間講師に任用替をしてもらいましたが、それでも体力、気力、知力が追い付かず、責任だけは果たさねばという思いで卒業式までは勤めようと思っています。

今、学校現場は補充教員不足で大変な窮地に陥っています。教頭や教務が担任を兼ねている学校も多くあります。退職校長会の皆様に可能な形で、可能な範囲で支援していただければ、学校としては大変助かるのではないかと思っています。また、任用システムを弾力的に運用できるようにしなければ補充教員不足は解消できないと考えます。

これまで、お世話になった教育現場に恩返しをと考え仕事をしてきました。理事会にはほとんど出席できず迷惑をおかけしてばかりでしたが、今後は少しでもお役に立てるようにしたいと思っております。ゴルフコンペもフルで参加したいと思います。

長寿祝い等記念品贈呈者様紹介

◎長寿祝い

◇賀寿贈呈（満九十五歳　県）

昭和三年四月二日～　昭和四年四月一日生

中村　正直　様　佐藤　昌志　様
吉川　浩先　様　折笠　常弘　様

◇賀詞贈呈（満八十八歳　全国）

昭和十年四月二日～　昭和十一年四月一日生

大竹寅八郎　様　目黒　穆雄　様
斉藤　眞　様　菅野　信一　様
齋藤　正寛　様　壹岐　武熙　様
齋藤　壽　様

◎叙勲・叙位

◇高齢者叙勲

目黒　穆雄　様　斉藤　眞　様
菅野　信一　様　壹岐　武熙　様

◇春秋叙勲

星　浩次　様　二瓶　洋允　様
土屋　悦男　様　福井　一明　様

◇叙位叙勲

中潟　崇雄　様　車田　喜宏　様
木實谷俊彦　様　尾形　博　様
小松　榮　様　面川　征洋　様
塩谷　公夫　様　菅原　弘　様

◎各種功労賞

◇福島市教育功労者表彰

斎藤　吉成　様

事務局より

◇第60回福島支部総会

◎日　　時　５月26日（日）
10時30分～13時30分
◎場　　所　グリーンパレス福島
◎内　　容
○長寿祝記念品贈呈
○協　　議
・令和５年度事業報告
会計報告
・令和６年度事業計画
予算案
○懇親会

※総会全体計画については３月の理事会で協議し、令和６年度の第１回理事会（４月12日開催）で細部について決定します。

◇第58回福島県公立学校退職校長会二本松大会

◎日　　時　６月12日（水）
10時30分～14時55分
◎会　　場　二本松御苑
◎大会次第
○開会式
○講　　演
講　師　大山采子氏
演　題
「父　大山忠作について」
◎体験発表
○石川支部
耶麻支部
いわき支部
◎大会宣言
◎閉会式

※福島支部へは33名の参加要請があります。希望者は方部担当理事へお話しください。

◎ご逝去会員様

（令和五年二月～令和六年二月）

次の方々がご逝去なされましたので方部理事・事務局が対応し弔慰を奉呈いたしました。

嶋原　守　様　佐久間英夫　様
小平　光雄　様　中潟　崇雄　様
北原　正三　様　古山　直一　様
五十嵐大典　様　車田　喜宏　様
木實谷俊彦　様　末永　正夫　様
尾形　博　様　小松　榮　様
面川　征洋　様　塩谷　公夫　様
菅原　弘　様　大室　幹男　様
遠藤　哲　様　菅野　信一　様
永倉　彰郎　様

編集後記

元旦に起きた地震は「令和六年能登半島地震」と命名されました。「東日本大震災」から十三年。津波・原発事故の映像は記憶に新しいところですが、今回の地震では家屋の倒壊の様子が映像として映し出されてきました。近くには志賀原発もあり大惨事になるところでした。

改めて地震国日本を感じさせられたスタートになってしまいました。早期の復興を願わずにはおられません。